

図の上部には、次の口上がある。

江戸

御名残

口上 中村芝翫

悴同 駒太郎

憚ながら高ふはムリ升れ共狂言半ば  
おそれをもかへりみず口上のもって申上  
たてまつり升る先は御町中様益

御きげんうるはしう御顔をはゐし升て  
何程か難有仕合に奉存升るしたがひ

まして私身分の義先年亥ノ年に

罷下り升て当座に置まして七ヶ年の

間不調法の私御ひるき厚く被成下升る

段誠に心魂にてつし難有仕合に奉存升

忝恐ながら申上るは此度師匠歌右衛門より

迎ひの者を遣しまして申升るは近年追々

病身に相成少しも早く歌右衛門名跡をゆつり

度存升る間すこしの間御いとまをねがひ此冬は

ぜひ／＼罷のぼりくれないとの事にムリ升れども

御江戸御ひるきの御連中様方の御ひざ元をはなれ

升るが何よりかなしく是まで度々其わけ申遣し置候処

此度は書状にては参るまじ逆師匠よりわけ合こと／＼く申聞候而

右名前の義に付一寸なりともなぼりくれない面談の上はともかくも

いたすべきよし誠によん所なく御いとまを狂言を差出し升るやうにムリ升

首尾よく名跡をゆつり受まして早速に罷下りましてかやうに有がたい

御目見へを一日も早ふ仕り升るやふ何卒相かはらず御ひるき御取立の程偏に

願上たてまつり升る何ぶん当狂言中御きげんよろしく永当／＼御見物の

ほどすみからすみまでずらりと希上たてまつり升る